

## 過去最多 142 の国・地域で日本語教育 2018 年度「海外日本語教育機関調査」結果（速報） 日本語教育機関数、教師数、学習者数 いずれも増加

国際交流基金は、海外における日本語教育機関の状況を把握するために、1974 年から約 3 年に 1 度「海外日本語教育機関調査」を実施しています。

2018 年度の調査では、前回（2015 年度調査）より 5 か国多い 142 の国・地域において日本語教育が実施されていることを確認しました。機関数、教師数、学習者数とも、一部の国・地域を除きアジア、大洋州での伸びが顕著です。現在と同じ調査方法を採用した 1979 年調査からの比較では、学習者数は 30.2 倍、教師数は 18.8 倍、機関数は 16.2 倍となりました。

	2015 年度調査結果	2018 年度調査結果（暫定）	増減
機関数	16,179 機関	18,604 機関	+2,425 機関 (+15.0%)
教師数	64,108 人	77,128 人	+13,020 人 (+20.3%)
学習者数	3,655,024 人	3,846,773 人	+191,749 人 (+ 5.2%)

### 【調査結果のポイント】

#### 1. 過去最多の 142 か国・地域で日本語教育の実施を確認

今回調査では、ジンバブエ、東ティモール、ペリズ、モザンビーク、モンテネグロの 5 か国で新たに日本語教育の実施を確認しました。この結果、日本語教育が実施されている国・地域の数は過去最多となり、またこれまで比較的日本語教育が盛んでなかった国・地域にも日本語教育が拡がりつつあることが分かりました。

#### 2. 世界全体の日本語教育機関数と日本語教師数も過去最多

海外の日本語教育機関の数は 18,604 機関 (+15.0%) と過去最多だった前を上回る結果となりました。これは中国、インドネシア、ベトナム、ミャンマー等で大きく増加したことが理由です。

また、日本語教師数は 77,128 人 (+20.3%) と、こちらも過去最多を更新する結果となりました。特にベトナムやミャンマーでは教師数の増加率が顕著でした。地域別にみると、機関数・教師数ともにアジアでの増加が顕著です。

#### 機関数 上位 10 か国・地域

2015年度 順位	2018年度 順位	国・地域名	2015年度 機関数 (機関)	2018年度 機関数 (機関)	増減数 (機関)	増減率 (%)
1	1	韓国	2,862	2,998	+136	+4.8
2	2	インドネシア	2,496	2,842	+346	+13.9
3	3	中国	2,115	2,435	+320	+15.1
4	4	オーストラリア	1,643	1,764	+121	+7.4
5	5	米国	1,462	1,445	△ 17	△ 1.2
6	6	台湾	851	846	△ 5	△ 0.6
12	7	ベトナム	219	818	+599	+273.5
7	8	タイ	606	659	+53	+8.7
18	9	ミャンマー	132	400	+268	+203.0
9	10	ブラジル	352	380	+28	+8.0

#### この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

## 教師数 上位 10 国・地域

2015年度 順位	2018年度 順位	国・地域名	2015年度 教師数 (人)	2018年度 教師数 (人)	増減数 (人)	増減率 (%)
1	1	中国	18,312	20,220	+1,908	+10.4
2	2	韓国	14,855	15,345	+490	+3.3
8	↑ 3	ベトナム	1,795	7,030	+5,235	+291.6
3	↓ 4	インドネシア	4,540	5,668	+1,128	+24.8
5	5	台湾	3,877	4,106	+229	+5.9
4	↓ 6	米国	3,894	4,018	+124	+3.2
6	↓ 7	オーストラリア	2,800	3,135	+335	+12.0
7	↓ 8	タイ	1,911	2,047	+136	+7.1
15	↑ 9	ミャンマー	524	1,542	+1,018	+194.3
12	↑ 10	フィリピン	721	1,298	+577	+80.0

## 3. 世界全体の日本語学習者数は約 385 万人に

前回 2015 年度の調査では世界全体の学習者数が調査開始以来、初めて減少しましたが、今回調査では学習者数は 3,846,773 人と、前回比で約 19 万人増加していることが分かりました。全世界の日本語教育実施国・地域のうち、前回から学習者数が増加した国・地域は 104、減少した国・地域は 41 と多くの国・地域で日本語を学ぶ人の数が増えつつあります。地域別にみると東アジアと北米を除く全ての地域で学習者数が増加しており、上位国・地域では中国・オーストラリア・タイ・ベトナム等で増加、一方でインドネシア・韓国・台湾・米国等で減少という結果になっています。

また学習者の増減を教育段階別にみると、「初等教育」（小学校に相当、前回比+57,778 人 (+20.9%)）および「学校教育以外」（前回比+224,963 人 (+37.1%)）で大幅に伸び、「中等教育」（中学・高校に相当）や「高等教育」（大学等）ではわずかに減少していることが分かりました。このことから、海外で日本語を学ぶ人たちの年齢層はより幅広くなりつつあるとみることができます。

## 学習者数 上位 10 国・地域

2015年度 順位	2018年度 順位	国・地域名	2015年度 学習者数 (人)	2018年度 学習者数 (人)	増減数 (人)	増減率 (%)
1	1	中国	953,283	1,004,625	+51,342	+5.4
2	2	インドネシア	745,125	706,603	△ 38,522	△ 5.2
3	3	韓国	556,237	531,511	△ 24,726	△ 4.4
4	4	オーストラリア	357,348	405,175	+47,827	+13.4
6	↑ 5	タイ	173,817	184,962	+11,145	+6.4
8	↑ 6	ベトナム	64,863	174,461	+109,598	+169.0
5	↓ 7	台湾	220,045	170,159	△ 49,886	△ 22.7
7	↓ 8	米国	170,998	166,565	△ 4,433	△ 2.6
9	9	フィリピン	50,038	51,892	+1,854	+3.7
10	10	マレーシア	33,224	39,247	+6,023	+18.1

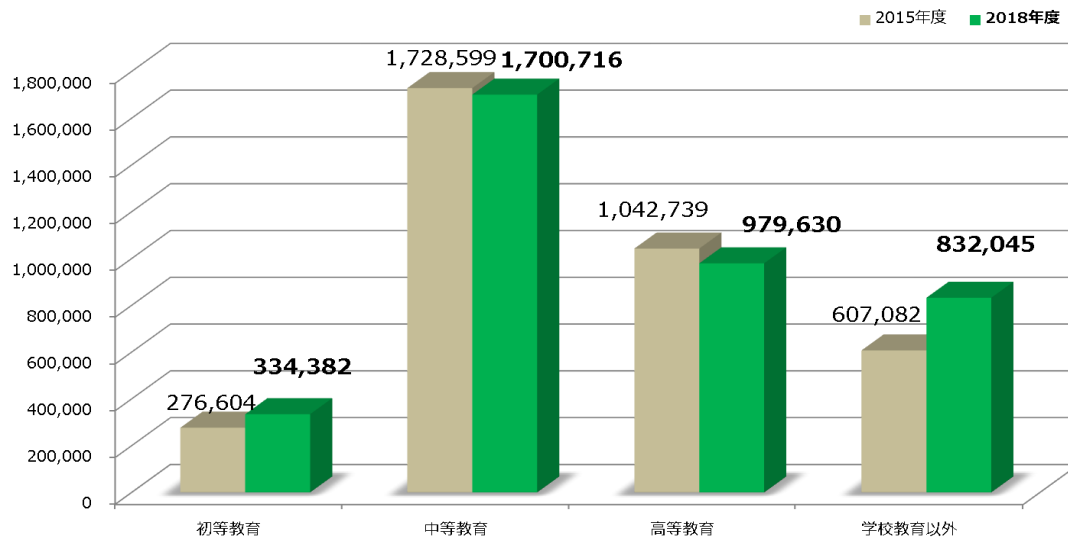
## この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

## 教育段階別の学習者数増減（前回調査との比較）



### 【2018年調査報告書の公表予定について】

本調査の報告書については、2020年1月以降に国際交流基金公式ウェブサイトにてPDF形式で全文公開する予定です。

### 【関係資料】

2018年度海外日本語教育機関調査結果（速報値）【PDF形式】

以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)